



ななつかの風

畜産技術センターニュース

発行事務局

●広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023
庄原市七塚町 584 番地
TEL 0824-74-0332
FAX 0824-74-1586

旧本館(七塚原記念館)前の大掃除

かつて、旧本館前の築山には、赤松や桜のきれいな植栽がありました。当時の植栽は、年月の経過で



枯れ、とってかわるようになりノキなどの雑木がによきによきと繁茂して、ここ数年は、かつての優雅な姿は見る影もなくなっておりました。



平成 29 年の年末から、旧本館の屋根根と同じ高さまで成長したユリノキの伐採

と、自由に伸びきったツツジなどの低木の刈り払いを開始しました。業務の合間を見計らいながらの作業ということで 1 ヶ月以上かかってしまいましたが、

見ることができなかつた築山が十数年ぶりに姿を現しました。

かつての植栽部分は、ユリノキから舞い落ちた葉が 10 年



の年月で堆積し、立派なカタツムリの冬宿となっていました。

また、築山中央部には、かつて存在した松の切株もあり、長い間誰にも顧みられることなく、時が流れていたことが伺えました。



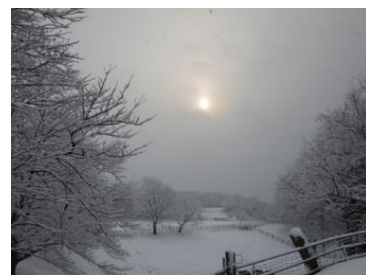
周囲の落ち葉や小枝を取り去ると昔の美しい築山の全景を確認できるようになり、かつての美しさを少しばかり復活させることができたような気がします。

掃除のおかげで旧本館の全景が見渡せるようになり、すっきりしたと職員からも好評です。

雪が解けて春になり、枯れずに残っていたツツジ等の手入れを行い、以前のような美しい玄関前をよみがえらせたいと考えております。

大寒波襲来

数年に一度の大寒波がやってきて、寒さに強いはずの庄原っ子でも寒〜いと感じる 2 週間が続きました。1 月 22 日(月)の朝に降り始めた雪は 1 週間続き、(降雪量はさほど



多くない) 超低温の影響もあり、路面(-11℃も記録)は長期間に渡り圧雪状態ですつるのままでした。

ニュースでもあったように、この冬もっとも大変だったのは、水道等の凍結対策で、管理課の神田則昭課長の号令のもと、水道管破裂防止のためのヒーター設置、水抜き等の事前対策が功を奏し、最小限の被害にとどめることができました。しかしながら普段なら、ほとんど凍ることのない室内の湯沸かし器や洗濯機の水まで凍ってしまい、職員にとってもつらく不便な冬となりました。

人間にとっては大寒波来襲でも、牛たちは関係ないようで、何事もないような平気な顔をして放牧地



で雪宿りしながら普段と変わらない様子で過ごしておりました。さすが北国生まれのホルスタイン!!この冬の寒さをもろともしない牛は、やっぱり強いと改めて感心させられました。

広島県立西条農業高等学校来訪

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の環境で2年生21名がフィステル装着牛を用いた飼料の消化試験のために来所されました。



フィステル装着牛とは、ウシの食べるエサがどの様に消化されるかを科学的に評価するため、第一胃(ウシは胃が四つある)に小窓(これがフィステル)を付けた試験牛です。小窓から牛の飼料が入ったティーパック

のような小袋を入れ、一定期間第一胃内に留置し後、取り出して飼料の消化具合を調べます。

当日(1月26日)は、あいにく雪が舞う寒い日でした。学生さんたちは、河野幸雄副部長から研究に関する説明を受けたのち、全員でフィステル装着牛が3頭繋養されている試験牛舎に移動しました。

牛舎では、フィステル装着牛の説明を受けたのち、実際に装着されたお腹のフィステルのふたを開き、手袋をした手を挿入して胃内容物を取り出す作業を体験しました。学生さんたちは、初めて見る生きた牛の胃内部と温かい胃内温度にびっくりしながら恐



る恐る胃内容物を体外に取出していました。生まれて初めて体感する生きた牛の胃内部の様子に“こんなになっているんだ”と感動する方もおられました。

ぜひ、数年後にはこのセンターの職員として一緒に働いていただければありがたいと思います。



編集ひとりごと

やっと長い冬も終わり、春の兆しを感じる今日この頃となりました。

年度末に向けて、職員も研究や日常業務の取りまとめと来年度に向けての作業に追われております。

By おがっち